

## 大学の世界展開力強化事業（平成 29 年度採択）中間評価結果

大 学 名	長崎大学、福島県立医科大学
整理番号	AR05
事 業 名	日露の大学間連携による災害・被ばく医療科学分野におけるリーダー育成事業

### 大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価  <b>B</b>	当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。
コメント 本プログラムは、チェルノブイリ原子力発電所事故による被害を経験したロシア連邦の北西医科大学をはじめ、ベラルーシ共和国の大学、研究機関と、東京電力福島第一原子力発電所事故を経験した日本の長崎大学、福島県立医科大学が連携し、世界的に人材が不足している災害・被ばく医療科学分野の専門家育成のため、日露の大学間連携によって、災害・被ばく医療科学分野における両国だけでなく世界における専門家の育成を目指している。 国内2大学間ではテレビ会議システムにより講義を行い、今後はロシアの学生も参加する予定となっており、個々の地からも交流を深めようとする姿勢が窺える。また、両大学とも外国人留学生の受入や日本人学生の派遣にあたってロシア語が堪能な教員を配置あるいは同行させるなど、サポート体制の構築や環境整備を進めている。これらの結果として、派遣学生数が目標を上回っており、評価できる。 一方で、英語力について目標値を満たす派遣学生が極めて少ないことから、英語教育の抜本的な改善に向けた取組が早急に求められる。受入学生数は、中間評価実施時点までの目標を下回っており、計画では全員が単位取得を伴う留学としていたところ、実績は目標の半数以下となっている。事業計画に沿って単位取得を伴う受入学生の増加に向けた対応が必要である。さらに、IAEA でのインターンシップは本プログラムにおいて重要な位置付けとされていることから、派遣可能な学生の育成が急務と言える。このほか、GPA 制度や UCTS あるいは ECTS による単位互換・認定制度の導入など、学生交流を行う上で必要な制度面での対応に遅れが散見される。2021 年のダブル・ディグリー・プログラムの開始を控え、連携大学が一層協力して制度整備に努めることが求められる。 最後に、今後も補助期間終了後の安定的な財源確保に努めるとともに、学内や関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と将来の我が国の更なる発展に向け、積極的にプログラムを展開していくことを期待する。	